

まんさく

第276号

発行

特別養護老人ホーム光寿苑
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字 元理事長 太田 祖 電

難儀掛げるとも今年も何ずが宜しく
お願いいたします♪【現役最年長の言】



令和4年度 光寿会事業が始まります

長き白銀の時間から希望膨らむ深緑の世界を迎えた今日：



光寿会職員72名でスタートします！宜しくお願い致します。

ようやく春を迎えられました。新しい職員も迎えました。お休み頂いておりました事業も再稼働に向け、ゆっくり小さくではありますが準備して参ります。宜しくお願い致します。

★初代から継承された基本理念と今の私たちに併せた心得と事業計画です★

光寿会基本理念

『生きる意味』を発見し合える道場にしよう

- (1) 寝たきりに近い状態で、一生を苑生活で閉じようとしている方が多いわけで、その方々との共同生活の中で、寝たきりであっても「生きる意味」に何の遜色も無いことを発見すべきである。それは、「職員からお年寄りへの愛」というだけの人間関係ではなく、お年寄りから職員への心づかい、愛などによって、初めて福祉職員として働いていられることを忘れないことである。
- (2) お世話する者とされる者という関係ではなく、むしろお年寄りに何かを学ぶという職員、そういう関係でありたい。

*** 光寿会職員心得…2022 ***

精神面 『僕の前に道はない 僕の後ろに道はできる』

ポジティブな意識で進んでいく事は、多くの場面でもよりよい効果をもたらすものです。ネガティブが過ぎると負のスパイラルに陥る事も多々あります。しかし、前ばかり見て歩んできた道を振り返り確認しないと、自分はこの先どこへ向かうのか？と見失う事にも成り兼ねません。自分たちの関わりがどうであったか？それによりどのような効果(お年寄りや家族の反応と変化、職員の変化 等)があったか？ 皆で振り返ります。

① 自分がされて嫌なことはしません、させません。

自分が『不快に思う事、嫌がる事』を相手にしない！という意識で常に見直してみましょう。その上で、相手にとって本当に嫌な事は何なのか、遠慮していないだろうか等、しっかり確認しましょう。

② 誰がいてもいなくても、裏表のない言葉づかいや表情で接します。

相手を敬う心は自分自身を尊ぶ心であり、それは言葉や表情に現れます。相手の立場を想像し敬う関わり方はいずれ自分に返ってきます。「自利利他」の精神でお互いが尊びあう関係を目指しましょう。

③ コロナ禍にあってもその人の大切なものを最期まで大切にします。

大切な人との面会や、大切な場所(自宅等)に出向く事など、中々実現できない世情。この環境下でも、大切にしてきたものをよく理解し、どうすれば実現できるか？最後まで諦めず務めましょう。

④ 相手を“よく知ろうとする”姿勢で臨みます。

コミュニケーション不足とそれに伴う思い込みや先入観は負のスパイラルを引き起こします。エラーが起った際にも対話と確認をして、相手(お年寄りや職員等)をよく理解して関わりましょう。

⑤ 『あいさつの心得』と『3つの基本姿勢』の意識で務めていきます。

当会が長く大切にしてきた表題の心得と基本姿勢(別頁参照)。自分たちの姿勢を振り返る上でも大切なものです。言葉・対応・接し方等、定期的に振り返りながら、よりよい環境づくりに努めましょう。

～以上、シンプルでありながら大切なこの心得を皆で護っていきましょう～

令和 4 年度『光寿会事業計画』

① 実状の人員体制に合わせて地域ニーズに応えます！

介護・看護の実状の人員体制に合わせ、事業規模を『特養 52 床+短期 8 床=計 60 床』に変更。地域ニーズに応えるべく、短期入居事業は『週末開所』『最大 4 名』等限定的対応から再稼働。夜勤 2 名体制を基本とし対応。

【実状の人員体制を工夫しながら運営持続可能とする効果】

② コロナ対策尽力の一方でお年寄りの心と命を護ります！

終わりの見えないコロナ禍で感染症対策に万全を期す一方で、お年寄りの暮らしのストレス緩和に尽力する。感染対策をとった上での行事企画や大切なご家族との面会や外出実現に向けて思考と実践を諦めず試みたい。

【安全な環境整備と豊かな暮らしが共存できる効果】

③ 現場のケアに浸透させた苑内研修を目指します！

苑内研修は人材育成の柱の一つ。R3 年度より実施の『1 研修複数開催』や、研修後に研修内容を現場の職務の中で一定期間実施する形式は効果的。意識の向上やスキル定着化を図る実践的研修で R4 年度も継続していく。

【実施義務のある研修内容をより日常内で研鑽させる効果】

④ 『防災』は心と体制、双方向から取り組みます！

“きつここは大丈夫…”という正常化バイアス(慢心や偏見)を見直す「心の防災」の意識向上のため、専門家による学びを取り入れたい。また、部分訓練を重ねて、より多くの職員が防災訓練に臨める場を設けたい。

【リアルな防災想定の中で個々の防災意識向上を図る効果】

⑤ 科学的介護システム『L I F E』を現場に活用します！

予め登録した利用者の基本情報・実施したケア・利用者の状態等のデータを分析し、ケア改善に関するフィードバックを行うシステム『LIFE』を導入。科学的にケアを検証し最良のケアを導き出しながら加算も獲得する。

【個別ケアを科学的視点から探求して実践に繋げる効果】

⑥ 明日の担い手に出遇える場づくりに貢献します！

人材確保の一環として町と町内事業所の協働で取り組んでいる小中高校での『介護の魅力化事業』3 年目。実話を基にした寸劇や介護のプラス志向の 3 Kを通じ、児童・生徒が介護に良いイメージを持ってもらえる様に臨む。

【介護の楽しさ・豊かさを働く私たちが発信し深める効果】

お彼岸に3.11を偲ぶ会 夜間防災総合訓練



其々の先祖様に想いを馳せるお彼岸と3.11の被災地を偲ぶ私たちの心は繋がっている...

[3月24日]



西和賀消防署の方にご指導いただきながら、3.11から学ぶ心で訓練を実施しています。 **[3月10日]**



3月10日、ありがたく頂戴してきました♪

24
時間テレビ
よ
ハイエース
拜受
♡

想... 災害を捉える ~大阪から発信をいたします⑫~

『岩手と大阪を繋いだバトン』… 松岡由美 さん

3.11以降に防災士資格取得。防災精神とあり方を発信し続けています。このコーナーを実に1年間 計12回、務め上げて下さいました。感謝を込めて最終章、承りたく存じます。

岩手と大阪を繋いだバトン

大役のバトンを拝受して1年。
 「表現に配慮不足はないだろう
 か；言葉はどう紡ぐか；と悩み
 考え、大阪から発信を続けてきま
 したが、今回が最後のメッセージ
 となります。」

私は防災の専門家ではありません
 ン。ソーシャルワーカーであるこ
 とを誇りに思っています。そして、
 障がい当事者家族としての想いも
 大切にしていきます。防災士として、
 社会福祉士として、そして人とし
 て；、自分の足で被災地に立ち、
 自分の目で見た事、感じた事、気
 づいた事に想いをのせて伝える；
 という覚悟を持って防災取り組み
 を始めました。

しかし、被災経験もなければ、
 直接の災害復興支援の経験もない
 私が語っていいんだらうか；とい
 う迷いと揺れと葛藤は、いつも抱
 いていました。

2019年、阪神淡路大震災の
 被災地の方からご縁あって講演依
 頼を頂いた時も、この葛藤に自力
 では対処しきれず、せん越ながら

も宜承さんにご相談しました。
 「頂いたご縁は大切にしたい。
 しかし、本当に私でいいんでし
 うか；」と。すると、

「何を言っているんですか。貴
 方だからこそ意味がある。我々で
 も風化しつつある災害への意識や
 取り組みを、大阪からでも、自分
 にもできる事があるんじゃないか
 ；と、今もなお忘れる事なく発信
 し続けてくれている。それ以上の
 理由なんて必要ないと思います。」

救われました。本当に嬉しか
 った。立場をわきまえた上で、私
 にもできる事があるんだ；と勇気
 を頂いたのでした。

そんな私に、この「災害を捉え
 る」という尊いコーナーの執筆を
 託して下さいというお心の深さに
 は、言葉では言い尽くせない程の
 感謝があります。

「そのご恩をお返しできれば；」
 という想いで、この大役のバトン
 を受けとったのでした。

災害は時も場所も選ばずに、日

常の中に突然やってくる。被災し
 ながら、一刻も早く支援者に戻るた
 めに、いつか来るであろう災害を
 前に、今、何を準備して、その時
 に何をして、その後にもまた笑える
 ために、救える命がひとつとして
 消えてしまわないために、日々の
 生活と防災取り組みを切り離して
 考えず、目の前の実践を丁寧にや
 り続ける事に尽きると思います。

最後に、福島県浪江町で（非）コー
 ヒータイムを運営されている橋本
 さんのお言葉を紹介させて下さい。

復興とは；△

- ・心配なく暮らせる地域である事
- ・安心して将来を考えられる事

この2つを守るために、防災取り
 組みを続けていきたいと思えます。

これまで尊い大切な役割を1年
 にも渡って見守って下さった光寿
 会の皆様には心から感謝致します。
 岩手と大阪のご縁を大切に、皆
 さんと、いつかきつとお会いでき
 ると信じて；



松岡由美

今月の登録者の方々
15名様です♪



春到来♪もう少し家の中で…「ひなたぼっこの日常」



2022/03/20 09:37



2022/03/20 09:26

お茶会『壁飾りづくり』

第6回『運営推進会議』(3月15日)

△委員9名、職員4名出席△

職1 今回は、今年度チェック検証
頂いてきた外部評価について、
来期に向けた「改善計画」を出
して頂きたいです。

委1 コロナ禍でこの2年はできな
かった「日中の利用者の状況を
観たり、お話を伺う機会」を、
以前のように設けて頂ければ、
より評価がしやすくなると思
いますので、盛り込んでいか
でしょうか。

職2 コロナの状況次第ですが、せ
ひそうしたいと思います。

委1 「地域協カムの都合」につい
ては、例えばある利用者さんが普
段利用しているお店などから、
「最近の様子」や「最近めっき
り買い物に来なくなった」等、
情報を頂けるような関わりを持
つことも大切ではないでしょ
うか？

委2 第一、上野々地区にお店が無
くなってしまうました。大きな
損失ですね。

委3 ひなたぼっこさんでお店を聞
いてもらうとか！(笑) 缶詰とかカ
ップラーメンといった長持ちす

る商品でやれたりしないのでし
ょうか。

職2 おもしろいですね。

委4 「地域の防災訓練への参加
協カムのところですが、職員
の川さんが毎年参加している
とのことですが、ご本人は地
区住民でもあります。個人と
しての参加なのか？事業所職
員としての参加なのか？立ち
位置を教えてください。

委2 おそらく、事業所自体が地
域の一員・住民と捉えている
と思いますので、そこまで掘
り下げなくても宜しいかと思
いますね。

委3 事業所宛の「訓練参加依頼」
を上野々地区から出してみる
のはいかがでしょうか。

職1 区長さんから出して頂けれ
ばありがたいです。

委5 来年度以降は、協議会長が
上になる等改定もあるわけで、
いずれ地区から出していき
たいと思います。

職1 宜しくお願い致します。

委2 地域と事業所の連携はとて
もよい前進ですね。

第101回

第101回目は家族会総会のお知らせです。3月24日に開催されました家族会役員会にて、春の総会は『書面議決』(3年連続)の運びとなりました。後日、郵送致しますので、ご対応、宜しくお願い致します。【写真は夏の役員会の様子】

元気です！家族会♪



光寿会へのご支援おかげさまでした



面会(上)／訓練指導(下)

- ★ 光寿苑家族会 様
⇒ 延べ6名 (3月1日～31日)
- ★ 西和賀消防署署員 様
⇒ 4名 (3月10日)

寄贈

- ★ 24時間テレビ 様
- ☆ 佐々木 里子 様 [北上市]
- ☆ 東海林 弘子 様 [北上市]
- ☆ 菅原 康悦 様 [滝沢市]
- ☆ 谷口 祐子 様 [川 尻]
- ☆ 高橋 敦子 様 [上野々]

寄附

長年応募し続け悲願の寄贈♪

- ★ 佐々木 静夫 様 [左 草]
- ★ 匿名 様 [川 尻]

★=光寿苑、☆=ひなたぼっこ

職員募集中



これ作ったの、光寿苑の調理さんだよ。美味しがったつて伝えておくからね♪

美味え食事だごど！
誰、調理のよお？

☆すべての職種募集ですが、特に『調理さん』急募しております☆



イラスト：1000

もう語る事が見つからないぐらい、このマンガコーナーでの10才ばっちゃんの世界観はご披露してきました。ここでも、ご自分の年齢的なところと居眠り天国をかけあわせるユーモアセンス♪この様な心を持てれば、争いは発らないだろう...

戦争から逃げる自分を許せない...

《インナ・コチカロワ》

第15回 丸田善明

自然法爾 (じねんほうに)

2月24日に始まったマポ

1チンのウイライナ侵略△報道に釘付けである。ミサイルやロケット砲弾の飛が交う戦場と化したウクライ

ナ的首都ギーウで、避難できずに取り残された人々の救援活動に取り組む、年若い大学教授のインナ・コチカロワさん。彼女は、

「頭では、ここに残るのは危ないし分かっています、感いているのは、私がここに必要だということ。戦争から逃げる自分を許せないのです、ここに留まっています。△」
こう語る。

国外から戦場と化したウクライナに帰って

来て、戦っている人もいる。

「ここは故郷だ。故郷を失ったら、私は帰って行くところがない。」
と言う。

多くの人を安全な国外に逃がす一方で、国を護るために戦っているこの人たちの話を聞きながら、私は「デラシネ」という言葉を思い起こした。「根無し草」ということ。故郷や祖国を失った人を意味するフランス語である。大地を失ったため根が張れず、成長できないままやがて朽ち枯れていくのち。

今、ウクライナの人々は、今生きること△の志を掲げた戦いのただ中を生きているのだと。

おわりに

先月、東本願寺の中高校生奉仕団の会にオンライン講話をさせて頂いた。全体テーマを「ちがいてこわい?」として3日間、様々な角度から「ちがい」について皆で探求。その中での中高生のこえ...

「私は違いはこわくない。周りの友達や受け入れてくれるから。」
「一人一人が全員違う状況なら認めあえるかも知れないけれど、集団と自分だけが考えの違いやあたりする場合はこわいと思う。」
「普段、中々相手と自分の違いが受け入れられない自分がいる。受け入れられる人になりたい。」
「環境や状況が変われば、「違い」の捉え方も変わる私。深められた。」

※「みんなちがって、みんないい!」...って本気で言いたい